

**放送日** 令和元年11月1日(金)  
**担当者** 行政管理課 増田 早紀

おはようございます。総務部行政管理課の増田です。市役所へ入庁して8年目となりました。最初の1年は大曲出張所、翌年から平成31年6月までは保険年金課国保賦課担当、そして平成31年7月からは行政管理課へ配属となっております。新人で出張所へ配属となり、扱う業務、覚えること、説明しなければいけないことの多さに頭が混乱することも少なくなく、窓口対応に自信を持てるまでかなり時間がかかったことを覚えています。その翌年度に国保医療課(現在の保険年金課)へ異動となり、保険税を担当することになりました。出張所で住民票関連に次いで多い窓口業務が国民健康保険に関する手続きや保険税の試算依頼であったため、基本的な知識を身に着けた状態で業務に取り掛かることができました。この二つの部署で身に染みたことは、説明の難しさです。来庁される方で、担当職員が日常的に使っている専門的ともいえる単語を知っている方はそれ程多くはなく、職員同士では通じる表現が不親切なものになってしまうことも多々ありました。説明の分かりやすさは窓口を含む全ての業務を行う上で大切なことだと思います。それを実現させるには、相手にあった単語や表現を選べるだけの知識が必要であり、分かりやすさのレベルは自分の理解度が大きく関わってくると身を以て学びました。

現在の行政管理課の担当業務では市民の方ではなく職員の方へ説明することがほとんどですが、その中で、身に付いてきた知識を駆使して如何に分かりやすく説明できるかは円滑に業務を進める上で大切なことだと改めて感じているところです。

他に置き換えられる表現はないか、用語を知る前はどうか表現していたか等を意識しておりますが、出来る限り分かりやすくお伝えできるよう今後も努めてまいります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月5日(火)

**担当者** 秘書課 高見 しづか

おはようございます。秘書課の高見です。

秘書課に異動し7か月がたちました。秘書課では主に理事者のスケジュール管理を行っており、市役所内部の打合せや外部の行事、事業などの調整を行っています。

異動前の保険年金課での仕事は市民の方と接する機会が多くありましたが、日程調整や出席する業務の事前打合せなど市役所内部の方と関わるが多くなりました。

職員の皆さんと関わる中で勉強になることが多くあります。人前で話すことが得意な人、話のまとめかたが上手な人、資料作成がわかりやすく丁寧な人など羨ましいなと思うことがたくさんあります。

周りの方を目標に、自分もいつか得意分野を見つけ、仕事に生かすことができるよう、過ごしていきたいです。

部署が変わり仕事の内容は変わりましたが、共通して仕事を進めるうえで大切なことは「事前準備」と「確認」だと感じています。秘書課の業務も各部署の担当と事前に打合せをし、スタッフ内での情報共有、内容の把握を忘れずにすることで、より正確に仕事を進めることができます。お客様や市の信用を損なわないためにも慎重に業務に取り組んでいきたいです。

今年の5月に秘書担当の研修があり参加してきました。講師の先生にビジネスにおいて大切なことはなんだと思いますか？との質問をされました。

今まではコミュニケーション能力が一番だといわれてきたようですが、最近は心身共に健康であることだと考える人も多くなってきたそうです。

自分の健康はもちろんですが周りの方の小さな変化にも気づくことができるよう過ごしていきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月6日(水)

**担当者** 税務課 市ノ渡 智哉

おはようございます。税務課市ノ渡です。つい先日、南アフリカ優勝で幕を閉じたラグビーワールドカップですが、今大会の日本代表の活躍から、今までラグビーを見たことがない方々も興味を持ち、選手たちのプレーに勇気や感動をもらったのではないのでしょうか。

私自身、高校からラグビーを始めましたが「多様性」が最大の魅力だと思っています。

1チーム15人で行うラグビーはポジションによって求められる体型やスキルは異なり、どんな選手にも自分に合ったポジションがあります。大学時代はチーム内に外国人選手がいたり、多様なルーツを持つプレーヤー同士が価値観を認め合うことの大切さを学びました。

仕事においても先入観にとらわれず、ラグビー憲章で掲げられている「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」を胸に、日々の業務に精進していきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月7日(木)

**担当者** 税務課 伊藤 夕紀

おはようございます。税務課の伊藤です。

私は日頃から決められた期限を守ることを意識して仕事をしています。

各種調査、定例監査資料の提出、予算要求など市の業務を行う上で期限はつきものです。

期限を守ることは当たり前のことと分かっていても、忙しいとつい期限を過ぎてしまうこともあるかと思えます。

ですがそうすると当然相手に迷惑が掛かってしまいますし、信頼を損ねてしまうかもしれません。

期限を過ぎてしまう理由として、業務多忙であることのほかに、後回しにしていざ取りかかってみたら思いのほか時間がかかってしまうことや、調査や業務の依頼が来ていることに気づけなかったということもあるかと思えます。

このようなことにならないために、私はメールや庁内掲示板をこまめにチェックし、依頼があればすぐに内容を確認し、業務のスケジュールに組み込むようにしています。自分には関係ないことと思わず、まずは確認することが大切だと思います。

以上のことに今後も気を付けて業務に励みたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月8日(金)

**担当者** 税務課 渡邊 雄太

おはようございます。税務課の渡邊雄太です。

入庁から早7年目となりました。この間、上司の方々をはじめ、皆様にはご迷惑をおかけし、助けていただきながら、精進させていただいているところです。

改めて感謝申し上げるとともに、周りの方々に本当に恵まれている人生だと感じています。

今年は、家屋係はどのようなことを心がけて業務を行っているかについてお話しさせていただきます。

資産税家屋係の業務は、固定資産税・都市計画税の賦課徴収です。市税の約52%、市の歳入全体でいうと約15%を占めており、各事業を実施するための予算の確保を行うとともに、法令に沿った適正な賦課徴収を執行することや、誠実丁寧な対応をとおして、納税義務者の方々からのご信頼を頂戴することが責務であります。

予算確保や法の適正運用は当然ながら税政の根幹であります。納税義務者からの信頼性確保については特に重点を置いているところであります。

業務の1つに新築家屋の現地調査があります。

新築家屋へ訪問し、施工されている資材や量等を確認した上で、税制度についての説明を行います。

市職員が自宅へ訪問する数少ない機会となりますので、市民の方からすれば非常に稀な場面となります。

ここでの振る舞いひとつで、市職員のイメージが決まりますので、市の代表であるとのプライドと責任感を持って訪問しています。

この他にも様々な業務がありますが、誠実丁寧な対応を常に心がけることをとおして、ご信頼を頂戴することができれば、これは、市政への信頼へと繋がり、更には、本市の目指す都市像である「成長・成長・交流都市」の実現及び向上へと続くものだと思います。

イソップ童話の「レンガ積みの職人」のごとく、定型的な業務であっても、その1つ1つの積み重ねが市政のあらゆる事業に繋がっていることを意識して、これからも業務に邁進して行きます。

ボールパーク構想の推進や超少子高齢化に対応する行政運営など、一筋縄では行かないことも多いと思いますが、目指す都市像の実現及び向上に向けて、市職員共にスクラムを組み、一丸となって頑張ってください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張ってください。

**放送日** 令和元年11月11日(月)

**担当者** 税務課 坂井 明日加

おはようございます。税務課資産税土地係の坂井明日加です。

みなさんは、文房具にこだわりはありますか。私はボールペンが好きで、文房具屋さんに行っては新しいものを試しています。今日は、仕事で使えるボールペンについてお話ししたいと思います。

メモをよく取る方や、アイデアをさっと書きたい方には、太字でゲルインクのペンがおすすめです。太字は細字よりもなめらかに書けるため速記に向いています。ゲルインクは、やや乾きにくいいため、手にインクが付いてしまうことがありますが、窓口によくおいてあるペンよりも、文字が切れにくいです。

省スペースが好きな方、現場に行かれる方は、1本で3色使えるペンをお持ちの方が多と思います。この多色ペンは機能的ですが、1色のインク量が少なく、すぐに替え芯が必要になります。また、ペン軸のなかで芯がしなるというデメリットもあります。なので、あて名を書くときは黒1色の、インクが乾きやすいものを使うことをおすすめします。

スケジュール帳への記入には、書いて消せるペンがおすすめです。最近カラーバリエーションが増え、マーカータイプのもや多色のものが出ています。ボールペンタイプのもは線がかすれることがありますし、「書いて消せる」という特徴から、正式な文書などには使えないなど、用途が限られてしましますが、1本持っているとても便利です。

ボールペンはインクの種類、芯の太さ、グリップの硬さなど、モノによって持ち心地・書き心地が変わってきます。これらは特徴であり、個性だと感じています。私自身、特徴や個性を持ち、これは誰にも負けないという自信を持ちながら、今後の業務に励みたいと思います。

**放送日** 令和元年11月12日（火）

**担当者** 税務課 阿部 祐亮

おはようございます。税務課市民税担当の阿部です。

突然ですが、皆さんは東京ディズニーリゾートに訪れたことはありますか？

私はこう見えてディズニーの世界観が好きで、季節ごとのイベントを楽しむため、年に複数回訪れ、入園する度に夢と魔法の国に癒されています。

1955年、アナハイムに世界初のディズニーランドがオープンした時、創設者であるウォルトディズニーは「ディズニーランドは永遠に完成しない。世界に想像力が残っている限り、成長し続けるだろう。」と語っています。人々に愛され続けるには、常に新しい夢とアイデアで改良し続けていく必要があることに気付いています。その一環として、現在ディズニーシーでは大規模拡張プロジェクトを進行し、2022年度中には3つの新エリアができる予定となっています。

この拡張の背景には近年、度々入園料金の値上げや来園者増に伴う混雑から顧客満足度の低下もあり、拡張計画は中長期的な観点から見た顧客満足度向上の重要な一手であると言われています。この計画は各メディアで注目されていますが、莫大な資金をかけて大規模な事業を展開できるのは、パーク運営の行動基準として設けている礼儀正しさを忠実に守り続けてきたからこそだと思います。この礼儀正しさは単に、言葉づかいや対応が丁寧なことを示すだけではなく、相手の立場にたった、親しみやすいおもてなしを示しています。

この姿勢については、民間企業のように利益を追求する立場ではない私たちにおいても通じるものがあり、相手の立場にたった対応を心掛け、実践していくことは市民満足度を向上させるサービスの一つとして重要であると思っています。

日々、多様化・複雑化する市民ニーズに上手く対応できない時もありますが、この姿勢を意識し、より質を上げれるよう取り組んでいきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。



**放送日** 令和元年11月13日(水)

**担当者** 税務課 田中 加奈

おはようございます。税務課の田中です。

昨年約1年間、育児休暇で職場を離れ、4月から復職しましたが、その1年間で変化した情勢や制度、またシステムの変更などに追いつくことに必死で、世の中の流れの早さを感じずにはいられませんでした。また、今年10月からは電子的に納税ができる共通納税システムが開始されたり、軽自動車税では環境性能割が導入されたりと、消費税増税と同時に他の税制度でも変更があり、対応にあたっているところです。

誰もがめまぐるしく変化する世の中の流れの中に身を置いていると思いますが、特に市役所で働く立場として、法律等の改正はもちろん、市民サービスの観点から様々な情報に対するアンテナを常に張ることが大切だと思います。また、その情報をどのように仕事につなげることができるのかを考えられる柔軟性も求められていると思います。一言で柔軟性といっても漠然としていますが、私自身としては受けた情報について、まずは拒否をせずに受け取り、吟味した上で判断することが大切だと考えます。

私は税務課に配属されてから7年目となりますが、何度も経験した業務に対して、これはこういうものだという固定概念を持ってしまい、深く考えず単に前例踏襲してしまっていることがあります。それに対して異動されてきた職員や新規採用の職員の方から「どういう制度でこう定められているのか」と質問を受け、そのときに初めて自ら調べて納得できる理由をつけられたこともありました。自分とは違う新しい視点からの意見や情報を受けると、反発したくなることもあるかもしれませんが、一度それを飲み込んで受け取ることで、視野が広がることもあります。人それぞれ感じ方や考え方は違うものなので、一人でも多くの人から意見を聞くことで、固定観念に縛られず、より柔軟な考え方ができるようになりたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。



**放送日** 令和元年11月14日(木)

**担当者** 危機管理課 西澤 弘充

おはようございます。防災危機管理室の西澤です。

明るい話題のない防災ですが、防災教室を行う機会が増え、子供達の明るい笑顔や潑刺とした行動に充実感を感じています。災害から命の守り方、備蓄品の組立、避難所運営ゲーム HUG を教え、素直に理解する姿に中学生達が頑張った「釜石の奇跡」が重なります。8年の年月が過ぎ忘れ去られようとしています。東日本大震災の最中、迫り来る津波から日頃の訓練通り率先して避難し、小学生、保育園児、更に大人まで引き連れ津波から逃れた事実です。重たい話になりますが、助かった命とその一方で報道されることが少なかった各自治体職員の命をかけた活躍がありました。岩手県大槌町で会議打合せ中の町長、課長の殆どが津波に呑まれ、同じく陸前高田市で約400名の職員中100名以上が被害に遭いました。避難所開設、避難の呼び掛けなどの対応に当たっている最中に市民と共に津波に呑まれたものと想像されます。現場で一緒に行動していた仲間や市民が津波に消えゆく姿は耐え難かったと思います。優しく、時に厳しい指導を受けた上司や先輩、苦楽を共にした同期、手塩にかけ仕事を教えた後輩を一瞬にして失うことはとても想像できません。そんな厳しい中でも業務は続けられたそうです。常に災害を考えているとストレスが溜まります。しかし、災害から多くの事を学び教訓とし、防災・減災に努めなければなりません。全国各地で発生する災害と各自治体職員の活動に関心を持つことは大切なことです。間もなく北海道は長い冬を迎えます。冬の災害、避難所開設は待ったなしです。今一度、事務分掌・連絡網の確認、万が一に備え災害時の行動を家族の皆さんと話すなど防災への意識を新たにして頂ければ幸いです。気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心に抱く大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月15日（金）  
**担当者** 災害復興支援課 柴田 賢人

おはようございます。防災危機管理室 災害復興支援課の柴田賢人です。

本日は、私が普段心掛けていることなどについてお話ししたいと思います。

私が常に心掛けていることは、家族や友人、職場の方関係なく、何かをしてもらった時には『ありがとう』と、感謝の気持ちを相手に伝えることです。

突然ですが、皆さんは『ありがとう』の反対の言葉はなんですかと質問された時に、どんな言葉を思い浮かべますか。私が最初に思い浮かぶ言葉は『当たり前』です。人はどうしても『当たり前』と思っていることに対し『ありがとう』と想ったり、伝えたりすることを忘れてしまいがちです。

『当たり前のことなんか何一つない、常に感謝の気持ちを忘れないこと。そして、その感謝の気持ちを言葉で伝えること』が、我が家の3つの掟の中の一つです。

話しが少し変わりますが、誰でもついつい、相手に何かをしてもらった時に、無言もしくは『ごめんなさい』『すみません』と言ってしまいがちです。しかし、その言葉をもしくはその言葉の後を『ありがとう』と、感謝の言葉に変えてみてはどうでしょうか。

『ありがとう』と言葉に出すことで、自分自身の心にいい変化が生まれます。心が変われば、人との接し方も変わり、人に対して親切になります。そしてそれはいつか、より良い市民対応に繋がっていくはずです。

『ありがとう』を言葉に出す。ぜひ、試してみてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月18日(月)

**担当者** 市民課 成田 淳朗

おはようございます。市民課の成田です。

私は大学生の時にとある合唱団に入団し、今日に至るまで12年間所属しています。合唱団では、ソプラノ、アルト、テナー、バスの各パートのうち、バスの一員として、国内外の様々な指揮者のもとで歌うという、とても貴重な体験をさせていただいております。

さて、この合唱、何も考えずただ歌うのなら楽なものなのですが、お客様に感動してもらえるような曲を目指すとなるととても大変です。

一人ひとりがそれぞれ練習し、正しい音や言葉で歌えるようになることは当然として、音や言葉などに込められた意味、各パートの関係性や役割など楽譜に刻まれた様々な要素を理解していくことも必要となります。

そして何より大事なのは、全員が考え方を共有し、同じ方向に向かって音楽を作っていくことだと思います。

ひとりで歌うのならいざ知らず、全員が別々の考え方や感情をこめて歌ってしまった場合、曲の持つイメージやメッセージが曖昧になってしまい、お客様に何も伝わらないまま終わってしまうこととなります。

そのため、指揮者が考える曲の情景や場面、メッセージなど世界観を共有し、その世界観を表現できるよう全員が一体となって演奏することによって、初めてお客様に感動いただける曲が出来上がります。

さて、私はこれらのことは仕事でも同様だと思います。

より良い仕事を作り上げていくためには、一人ひとりの能力の向上なども必要ですが、何より職場の仲間と考え方を共有し、同じ目的に向かっていくことが必要だと思います。

私たちの仕事は、1人では解決できず、職場の仲間と協力しなくてはならないことが多々あります。

そうしたときに、目的を明確にし共有することで、達成の手段を一緒に検討したり、お互いをフォローしあったりしながら作業を進め、結果として質の高い成果を出すことができると思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月19日(火)

**担当者** 市民課 藤田 まゆみ

おはようございます。市民課生活安全担当の藤田です。

主に、交通安全、防犯、暴力追放運動の事業にたずさわっています。

特に、交通安全については平成21年度からですので、10年になります。

今日は長くかかわってきた交通安全についてお話ししたいと思います。

市内で交通安全運動にたずさわっている方々はすべてボランティア活動です。特に春、夏、秋、冬の交通安全運動期間では朝早くから東部、西の里、大曲、西部地区の交通安全協会・協議会が中心となって街頭啓発を行っております。

担当になったころは、7、8人しか参加していなかった地区も、今では30人近く参加してもらえるようになっていきましたので、地域の方々の連携や声掛けなどで広く交通安全運動に対する活動が浸透してきたのだと思います。

交通安全は「交通ルールを守る」ことと一言でいいますが、そう簡単ではないようです。なぜなら一人一人が交通ルールを守ることができれば交通事故は起きないと思うのですが、残念ながら、毎日交通事故のニュースが報道されています。北広島市でも毎月十数件近い交通事故が発生しています。1件でも交通事故を減らせるようにと地域の方々が地道な街頭啓発を実施しています。

毎日の生活の中で安全に対する思いが強ければ強いほど、交通事故に遭遇することが少なくなるのではないのでしょうか？今日の安全が明日の笑顔につながります。

ぜひ、皆さんも家族や離れて暮らしているご両親、お子さんに交通事故に遭わないよう、起こさないよう機会があるたびに一言、声掛けをしてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月20日（水）

**担当者** 市民課 長尾 俊宏

おはようございます。市民課の長尾と申します。

私は、現在市民課で戸籍・住基・マイナンバーに関する業務を行っており、現在の部署に配属になって5年目になります。

業務の都合上、市民の方からよく受ける相談として、「亡くなった方の出生から死亡するまでの戸籍を取得したい。」というものがあります。今日はこの点についてお話ししたいと思います。

まず、戸籍を請求できる方については、例外はありますが、配偶者か直系血族（父母、子、祖父母、孫など）であることが原則です。住民票とは違って同じ世帯に住んでいなくても請求できます。

また、管轄は住民登録がある市区町村ではなく、本籍地の市区町村です。複数の市区町村に請求しなければいけないケースも多々ありますので注意が必要です。請求方法は、どの市区町村も共通する点が多いですが、細かい部分で異なる点もありますので、管轄する市区町村に請求前に確認した方が良いでしょう。

なお、戸籍を請求する順番ですが、特段の事情がないのであれば、死亡の記載のある最も新しい戸籍から請求することをお勧めします。そこから前の戸籍に遡っていけば、保存年限超過による廃棄等の一部の例外を除き、出生時の戸籍まで取得することができます。

最後に、余談となりますが、部署によっては職員の方も戸籍や住民票を公用請求により取得するケースがあります。取得した戸籍や住民票について疑問がありましたら、戸籍・住基担当職員や過去に業務経験のある職員に御相談いただければと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月21日(木)

**担当者** 環境課 土居 裕之

おはようございます。環境課主査の土居です。

今では数少ない昭和に広島町役場入庁し、32年目になりました。

環境課では、衛生と霊園を担当しており、畜犬などのペット、スズメバチなどの害虫駆除相談、空き地の草刈勧告、専用水道、簡易専用水道、井戸、浄化槽、火葬場、霊園に関する事など、多岐にわたる業務を行っています。

私の担当業務は、市民の生活に関する業務が多いことから、窓口や電話での問い合わせも多く、挨拶や丁寧でわかりやすい対応を心がけています。

特に気をつけていることは、専門的な用語、一般的に聞きなれない用語を使う場合、「知らないの?」「わからないの?」という態度はとらないようにして、きちんと伝わるよう説明するという事です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月22日（金）

**担当者** 環境課 小川 大輔

おはようございます。環境課廃棄物計画担当の小川です。

今年も残すところ1ヶ月あまりとなりました。年末年始を迎え、職場の同僚や友人、家族とともに、ご馳走を囲む機会も増えてくるのではないかと思います。私自身も食べるのが好きなので、この時期はどこのお店に行こうか、何を食べようかなどと考えるのが楽しみです。

さて、「食品ロス」という言葉もだいぶ馴染みのあるものになってきたと思いますが、皆さんはどれだけ意識しているのでしょうか。ついつい、料理を作りすぎたり頼みすぎたりして、食べきれずに捨ててしまっていることもあるのではないのでしょうか。

日本は食料の大部分を海外からの輸入に依存しているにも関わらず、今でも年間600トン以上の食品ロスが発生しています。これは国民一人当たりの換算で、毎日お茶碗1杯分の食べ物が、まだ食べられるにもかかわらず捨てられている計算になるそうです。

また、食べ物を食べずに捨ててしまうということは、その分ごみを増やすということでもあり、地球温暖化など環境問題の一因にもなっています。

適量を、残さずに食べきる。これは食べ物や金銭的な無駄を減らすだけにとどまらず、暴飲暴食の予防にもなり、自らの健康維持にもつながります。

あれも食べたい、これもおいしそうだななどと思っても、本当に食べきれるかを考え、次回のお楽しみに残しておくのも良いかと思います。

皆さんも、ほんの少しだけでも食品ロスを減らすことを心に置きながら、楽しいひとときを過ごしてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。



**放送日** 令和元年11月25日(月)

**担当者** 環境課 志村 龍之介

おはようございます。環境課でごみの担当をしている志村です。ごみの担当の仕事の1つに、最終処分場、いわゆる埋立地に捨てられるごみの量を削減し、少しでも長く使えるようにするというものがあります。北広島市はごみを燃やす焼却施設がないため、みなさんが排出した資源にできないごみはそのままの状態です。埋立られます。ごみは燃やして灰にすると、容量がおおよそ10分の1になると言われています。焼却を行えば100年使用できる広さの埋立地でも、現在の処理方法の北広島市では10年しか使用できません。令和6年に稼働開始予定のごみの焼却施設ができあがるまでの間、ぜひみなさんにはごみの減量化に協力をしていただきたいと思います。

では、具体的にどのようなことをすればごみを減量化し、埋立てるごみの量を減らすことができるのでしょうか？ありきたりな答えにはなっていますが、日々の分別が埋立量に直結しています。埋立てられるごみの中身の調査によると北広島市のごみの内訳は30%が生ごみ、20%がプラ、ペット等の資源ごみ、25%がミックスペーパーや古着・古布など公共施設等で拠点回収をしているものになっており、埋立てることしかできなごみは25%しか含まれていないという結果が出ています。

10月からリサイクルできるごみを増やすために庁舎内の分別区分が変更されましたが、みなさん分別はきちんと行っていますか？清掃員の方にごみの分別状況を聞いたところ、お弁当容器の90%が洗われている、ペットボトルのラベルが80%は外されているなど10月から分別状況がとても良くなったとのことでした。ぜひ100%を目指していきましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月26日(火)  
**担当者** 市民参加・住宅施策課 畠山 謙志

おはようございます。市民環境部市民参加・住宅施策課の畠山です。

今年、平成が終わり、新しい天皇のもと新元号「令和」の時代がスタートしました。

振り返ってみると、4月には、改正入国管理難民認定法や働き方改革推進法、10月には消費増税と幼児教育・保育無償化が始まりました。

本市においても、災害の復興に向けた取組やボールパーク開業に向けた取組など、関係する部署の方々においては、非常に大変な年であったことと思います。

さて、私ごとですが、今年、人生で初めての入院を経験しました。そのとき、病室で耳を澄ますと、ある言葉が聞こえてきました。

井の中の蛙大海を知らず、されど空の青さを知る。退院後、調べてみると諸説ありますが、時はさかのぼること100有余年、幕末の時代に抗い続け、最後は志半ばでその生涯を閉じた新選組局長、近藤勇の放った言葉です。井戸の中の蛙は広い海があることを知らないが、井戸から見える空の青さを知っているという意味です。

様々な経験をすることや、広い知識を得ることは大切なことだと思います。しかしながら、一つのことに没頭し、突き詰めることで見えてくる空の青さこそ、誰にも負けないプロフェッショナルを持つ者こそが、今の時代に必要なのではないかと感じざるを得ません。

時代を超えてなお、心に深く刻み込まれるその言葉を胸に、近藤課長のもと、次代を担う子どもたちや市民の皆さまの笑顔があふれ、将来にわたって着実に成長するまちを目指して、全力で業務に取り組んでいきたいと思っています。気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月27日(水)

**担当者** 福祉課 吉崎 陽介

おはようございます。福祉課障がい福祉担当の吉崎陽介です。あなたには障がいがありますか？障害者手帳を所持し障がいがあると言う方もいれば、私には障がいは無いと思う方もいるでしょう。しかし、「障がいはない」と思っている方も生きる時代や暮らしている環境が異なれば、その状況は違っていたかもしれません。

もし500年前の日本に存在していた物だけで生活をするとしたら、多くの方は、“あるもの”が無いために、日常生活に支障を感じるでしょう。その“あるもの”とは何でしょうか？正解はいくつかあると思いますが、その一つに、“眼鏡”があげられます。眼鏡は宣教師フランシスコ・ザビエルにより日本に伝えられ、500年前の日本にはありませんでした。視力が低い人には、眼鏡が無い日常生活は大変支障があり、「障がいがある」と思うでしょう。

障害者基本法の中での障がい者の定義は、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」とされています。言い換えれば、障がいがあっても、社会的障壁が除去され、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受けないのであれば障がいがあると言えない場合があるということです。先に話した“眼鏡”の利用は、社会的障壁を除去する方法の一つであるのです。

社会的障壁を除去する方法が増えれば、障がいのある方も自分が障がいであると感じ難くなるでしょう。障壁を除去する方法は眼鏡のように物を使うことに限りません、負担が重くなりすぎない範囲で障がいのある方へ配慮をすることも社会的障壁の除去となります。これを合理的配慮といいます。眼鏡ほど効果はなくても、日常生活の制限を少なくしてあげることができます。

障害者差別解消法の中で行政機関は合理的配慮をしなければならないとされていますが、日々の業務で対する相手が自ら障がい者であるとは言うことはあまり無いと思います。接する相手がだれであっても、相手の様子を見て可能な配慮はしていくことが障壁の除去につながっていくと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月28日(木)

**担当者** 福祉課 大久保 竜二

おはようございます。保健福祉部福祉課の大久保 竜二です。私は以前まで営業の仕事をしており、道内各地の農協などに、工場や施設の営業をしておりました。

例えば、野菜を冷やす倉庫に設置される冷凍機、穀物を貯蔵するサイロ、野菜を出荷する際に使われる設備で、野菜をベルトコンベアの上で運び、洗浄しながら、サイズを仕分ける設備などの販売をしておりました。

その営業という分野で多くのことを学び、今でも大事にしていることがあります。

それは、顧客は本当の要求は営業に伝えてこない、そして、顧客自身も自分の欲しいものに気付いていない。そこを営業マンとして会話などで深掘りをして、本当に必要なものに気付いてもらい、商品を販売することが大事だということです。

例えば、営業先で野菜を保冷する冷凍機の部品1つの受注を受けた場合、そのまま言われた通りの部品を売ることはせず、その状況や背景を聞いていきます。そうすると、どうやら部品だけで済む話ではなく、そもそも冷凍機本体が古く、本体の更新やオーバーホールが必要なケースがよくありました。

言われた商品のみを販売し、本当に顧客に必要な商品を販売できていないとなると、冷凍機を使用する野菜の出荷シーズンにその冷凍機が故障する可能性があり、野菜を冷やせず大量の野菜を腐らせ、顧客に損害を与えることとなります。

このように会話で、その人の状況や環境を深掘りして聞いていくことは、営業以外でも重要であると思います。

今の仕事は生活保護業務に関わっていますが、お金がなくて、生活に困っているという相談があります。その話を注意深く聞いていくと、実はお金の問題以前に、家庭内で暴力を受けていたり、児童虐待があるなどで、すぐに専門の部署や機関につながなければいけないケースというのがあります。

表面上の要求や要望のみに捕らわれると、潜在的で、さらに根本的な問題に気付かず、最悪事件に発展しているケースを最近ニュースでも、報道されています。

今は社会的に、労働時間の見直しや働き方改革で効率的な働き方を求められています。

効率を求めるあまり、パソコンや事務作業ばかりに気をとられがちですが、そんな中でも、対話の時間を設け、その人自身に目を向け、その人の本質的な要求・問題をくみ取ることができれば、仕事の効率化以上の成果を得られるのではないのでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 令和元年11月29日（金）  
**担当者** 福祉課 伊藤 雄真

おはようございます。福祉課の伊藤です。

みなさんは生涯学習という言葉をご存知でしょうか。

生涯学習とは、「人々が生涯に行うあらゆる学習」とされ、文部科学省のホームページには、「自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」生涯学習社会の実現などについて書いてありますが、私は、生涯学習という言葉には別の意味も含まれていると考えています。それは、「学校の教育や、机に向かって行う勉強などの主体的に行う学習以外にも、人生において、様々な場で学ぶことができる」ということです。

私はリアル脱出ゲームというものが好きでよく参加しています。実際に数人で部屋に閉じ込められ、部屋の中のヒントを探したり謎を解いたりして、脱出を図るというものです。

このゲームをクリアするための秘訣として、運営の人から毎回伝えられることがあります。それは「情報共有」と「役割分担」です。一人一人が早く謎を解けても、皆が同じ謎を解いていたり、また、解いた謎をまとめる人がいないと脱出はできないからです。

私はこのことが仕事においても同じだと考え、特に「情報共有」については常に意識しているところです。

このように学習の機会は様々な場で存在し、自分が意識するだけで、たとえ趣味の場であっても、それは同時に学習の場となるのです。

これからも、日常の中でのふとした瞬間の学びを大切にして日々の業務に励んでいきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。